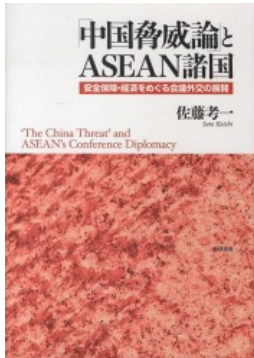


■ 会員新作情報

佐藤 考一 会員



著書名：「中国脅威論」とASEAN諸国 安全保障・経済をめぐる会議外交の展開
 著者：佐藤考一（桜美林大学リベラルアーツ学群）
 発行年月：2012年12月15日
 出版社名：勁草書房

ASEAN諸国は中国の何を脅威と感じ、何を問題視しているのか。アジア太平洋地域の「中国脅威論」を、歴史的要素、軍事的要素、政治的要素、経済的要素、非伝統的安全保障要素、規模の要素に類型化し、ASEAN諸国の「中国脅威論」の特徴を明らかにすると共に、「会議外交」という「弱者の武器」によって、ASEAN諸国が中国にどう立ち向かってきたのかを考察した。巻末にASEAN諸国の華人の統合問題についての考察も収録。

鈴木 隆 会員



著書名：中国共産党の支配と権力一党と新興の社会経済エリート
 著者：鈴木 隆
 発行年月：2012年07月
 出版社名：慶應義塾大学出版会

市場経済化にともなう新しい社会経済エリートの台頭に直面して、中国共産党はどのように政治的適応を果たしたか。2000年代初頭から現在までに、中国の支配体制と権力構造はいかに変貌を遂げたのか。多数の資料と緻密な実証分析による、今後の中国政治の方向性をさぐる意欲作。

小此木政夫 会員ほか



著書名：シリーズ・日韓新時代
 1『日韓新時代と東アジア国際政治』
 2『日韓新時代と経済協力』
 3『日韓新時代と共生複合ネットワーク』
 著者：小此木政夫・河英善編
 発行年月：2012年06月
 出版社名：慶應義塾大学出版会

(1巻)日韓両国が国際社会において役割を果たし、また両国の平和、安全、繁栄に何がなされるべきか。北朝鮮の核問題、日韓安全保障協力、エネルギー環境分野の日韓協力など、国際政治的視点から多面的に考究する。



(2巻)アジア地域経済連携に日韓両国が果たすべき役割とは何か。新しい東アジアの創造のために、域内市場・金融市場の安定的な拡大や発展不均衡の是正に向けて、少子高齢化に直面する日韓が協力・主導すべき連携や知的貢献を明らかにする。



(3巻)日韓両国の専門家が、日韓関係を歴史認識、北朝鮮問題などの様々な切り口から分析。両国の過去と現在を読み解き、緊密な協力関係の構築に、そして東アジアの平和と繁栄に向け、今後何が必要とされるかを提言する。

■任哲会員



著書名：中国の土地政治：中央の政策と地方政府
著者：任哲（アジア経済研究所）
発行年月：2012年06月
出版社名：勁草書房

なぜ中央政府が公布した政策は効果を発揮できないのか、政策実施過程で何が起きているのか、政策実行を阻害する要素はあるのか。中国の中央・地方関係を、財政収入の重要性・利益の多様性・話題性の3つを基準に、不動産と土地を事例分析の対象として分析を進める。

■沼崎一郎会員、佐藤幸人会員、田上智宜会員、寺尾忠能会員



著書名：交錯する台湾社会
著者：沼崎一郎（東北大学）、佐藤幸人（アジア経済研究所）
発行年月：2012年03月
出版社名：アジア経済研究所

台湾社会はますます複雑になっている。そのまともりは強まるのか、それとも弱まるのか。エスニシティ、アイデンティティ、市民社会・社会運動からアプローチする。

■張兵会員



著書名：図説アジアの地域問題
著者：張兵（山梨県立大学国際政策学部）
発行年月：2012年03月
出版社名：時潮社

注目されているアジアの地域問題を50のテーマにしぼり、テーマごとに見開きの形で最新のデータや研究成果を紹介し、適宜問題提起をしている。授業の教材の作成に悩んでいる方または研究全般をとらえようとする方におすすめの一冊。

■中溝和弥会員



著書名：インド 暴力と民主主義：一党優位支配の崩壊とアイデンティティの政治
著者：中溝和弥（京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科客員准教授）
発行年月：2012年02月
出版社名：東京大学出版会

インド国民会議による一党優位支配は、なぜ崩壊したのか。本書は、インドにおける会議派支配の崩壊からアイデンティティ政党の台頭という重要な政治変動を、カースト・宗教アイデンティティに基づく暴動、とりわけ暴動への対処法に着目して分析する。暴力を軸に、カースト・宗教アイデンティティの相互作用、そして中央、州、農村各レベルのつながりを現地調査に基づいて多層的・包括的に分析することによって、現代インド政治のダイナミズムを描き出す。

船津鶴代会員、永井史男会員、岡本正明会員、河野元子会員



著書名：変わりゆく東南アジアの地方自治
著者：船津鶴代（アジア経済研究所）・永井史男（大阪市立大学）編
発行年月：2012年02月
出版社名：アジア経済研究所

東南アジアの地方は分権化とともに大きく変わった。本書は、東南アジアの主要民主主義国4カ国（インドネシア、タイ、フィリピン、マレーシア）について、中央政府から地方政府への権限移譲、公共サービスの地方展開を軸に、政治過程にも変化が及びつつある各国の地方行政制度とその背景を比較・分析したうえで、東南アジア4カ国の地方自治の現在と展望を析出する。

毛里和子会員、朱建榮会員、高原明生会員、加藤弘之会員、大島一二会員、諏訪一幸会員、中居良文会員、呉茂松会員、小嶋華津子会員、南裕子会員、中岡まり会員、阿古智子会員（執筆順）



著書名：中国共産党のサバイバル戦略
著者：菱田雅晴（法政大学）
発行年月：2012年02月
出版社名：三和書籍

果たして、中国共産党は内外環境の激変から執政党としての存続が危殆に瀕しているのだろうか、それとも、逆にこれら変化を所与の好機として、その存在基盤を再構築しつつあるのだろうか。この大きな関心から、本書は中国共産党のこれまでの予防的な対応ぶりに注目し、これを“サバイバル戦略”と名付け、中国政治の全体構造、制度的側面、そしてわれわれ自身のミクロ調査の結果に依拠して現実社会における中国共産党／黨員像に肉迫しようとした。

柴田 哲雄会員



著書名：中国民主化・民族運動の現在—海外諸団体の動向
著者：柴田 哲雄（愛知学院大学教養部歴史学教室・准教授）
発行年月：2011年12月
出版社名：集広舎

本書では海外の中国民主化・民族運動、米国の支援組織について、関係者へのインタビューなどを踏まえて様々な角度から分析する。本書の目次は以下の通りである。第一章米国民主義基金（NED）の対中国活動。第二章海外中国民主化運動の思想（胡平を中心に）。第三章米国における中国民主化運動の組織の実態（中国民主団結聯盟と中国民主党）。第四章ダライ・ラマ、チベット亡命政府（CTA）とチベット青年会議（TYC）。第五章世界ウイグル会議（WUC）／東トルキスタン共和国亡命政府（ETGIE）／東トルキスタン・イスラム運動（ETIM）。

岡田 実会員



著書名：「対外援助国」中国の創成と変容 1949-1964
著者：岡田 実（法政大学）
発行年月：2011年11月
出版社名：御茶の水書房

冷戦期の旧社会主義諸国は、いかなる動因、政策、体制のもとで対外援助を実施してきたのか。戦後復興から新国家建設の途上にあつた中国が、ソ連の援助を受け入れつつ「兄弟国」への支援を開始し、さらに「対外経済技術援助八項原則」を有する「対外援助国」に変容していく軌跡を描く。

■梶谷 懐会員



著書名：「壁と卵」の現代中国論：リスク化する超大国とどう向き合うか
著者：梶谷 懐（神戸大学大学院経済学研究科）
発行年月：2011年10月
出版社名：人文書院

本書では、「中国」はひとつにまとまった、堅く大きなシステムではないという観点から、揺らぎ、ときに衝突する、中国の制度（=壁）と個人（=卵）の問題を経済を中心に社会、歴史を横断しながら論じている。

■梶谷 懐会員



著書名：現代中国の財政金融システム－グローバル化と中央－地方関係の経済学－
著者：梶谷 懐（神戸大学大学院経済学研究科）
発行年月：2011年08月
出版社名：名古屋大学出版会

本書は現代中国の経済発展に果たした、積極果敢な楽観主義者としての地方政府の決定的役割に注目しつつ、独自の中央-地方関係に基づく財政金融システムが構造的に生みだしてきた問題と、それが世界経済に及ぼす影響に焦点を当てて分析した研究所である。また、グローバル不均衡や人民元改革問題にも新たな光をあてている。

■田中 修会員



著書名：2011～2015年の中国経済―第12次5カ年計画を読む―
著者：田中 修（財務省財務総合政策研究所次長）
発行年月：2011年06月
出版社名：蒼蒼社

2011年からスタートする中国第12次5カ年計画のポイントを詳細に解説するとともに、中国のマクロ経済政策の特徴、中国経済の抱える構造問題についても分析している。また、第12次5カ年計画要綱全文訳、最高指導者の重要講話も掲載しており、資料的価値も豊富である。

■清水一史会員、田村慶子会員、横山豪志会員、篠崎香織会員、日下渉会員、永井史男会員、遠藤聡会員、山田満会員



著書名：東南アジア現代政治入門
著者：清水一史（九州大学）・田村慶子（北九州市立大学）・横山豪志（筑紫女学園大学）
発行年月：2011年03月25日
出版社名：ミネルヴァ書房

多様性あふれる東南アジアを、独立までの歴史と人々の暮らし、植民地化、各国の独立のプロセス、国民国家建設と経済発展の光と影などを中心に明快に解説した。これまでの入門書から外れていたラオスも加え、ASEANの章も独立して設けた。

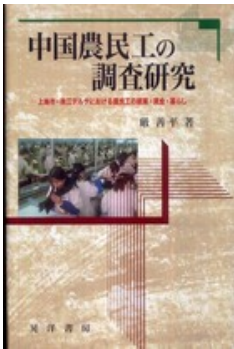
川島 哲会員



著書名：アジアの地域連携戦略
著者：川島 哲（金沢星稜大学経済学部）
発行年月：2011年02月
出版社名：晃洋書房

本書においては、主に東アジア（北東アジア及び東南アジア）における経済連携を取り上げた。この主旨は、当該地域が今後いかなる「地域」として独自の色彩をはなっていくことができるのか、我が国経済にも大きな光と陰をもたらすことは言うまでもないことであると感ずるからである。

巖善平会員



著書名：中国農民工の調査研究—上海市・珠江デルタにおける農民工の就業・賃金・暮らし
著者：巖善平(桃山学院大学経済学部)
発行年月：2010年12月
出版社名：晃洋書房

近年の中国で、労働争議が多発し大幅な賃上げも繰り返されている。著者は自ら上海市と珠江デルタで行った就業調査のマイクロデータを駆使し、「世界の工場」を支える農民工の就業、賃金と暮らしの実態を描き、労働市場の構造変化を実証的に分析する。

安倍誠会員、佐藤幸人会員



著書名：アジアの産業発展と技術者
著者：佐藤幸人（アジア経済研究所）
発行年月：2010年11月
出版社名：アジア経済研究所

経済発展の根幹は技術発展であり、技術発展の主たる担い手は技術者である。本書は技術者に焦点を当てて経済発展のメカニズムを論じた、新しいアジア経済論の試みである。

竹中千春会員



著書名：盗賊のインド史 帝国・国家・無法者（アウトロー）
著者：竹中千春（立教大学法学部）
発行年月：2010年10月
出版社名：有限会社 有志社

アフガニスタンやソマリアなど、グローバル化下の現代世界では、「周縁化された人々」が武装し戦い続けている。彼らはいったい何者なのか？インドで「盗賊の女王」から1996年に国会議員となり、のちに暗殺されたプーラン・デーヴィーをはじめ、インド近現代史のなかで繰り広げられた盗賊、武装した農民、山の人々、遊牧民と近代国家の相克を描き、無法者(アウトロー)の世界に一歩足を踏み入れて、暴力の背後にある真の問題を見つけ出す。

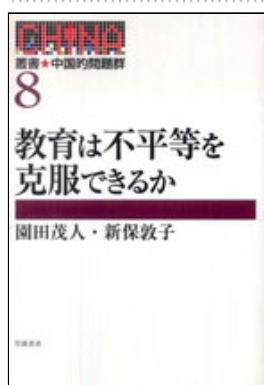
田村慶子会員、竹中千春会員、小嶋華津子会員



著書名：ジェンダーの国際政治
著者：田村慶子（北九州市立大学）
発行年月：2010年8月
出版社名：有斐閣

国際政治学会学会誌『国際政治』初めてのジェンダー特集号。ジェンダー研究と国際政治学の交差を模索する理論研究（竹中千春執筆）から、事例研究として女性移住労働者、紛争地の女性、女性政治家、共産圏における女性（小嶋華津子執筆）、女性の政治的エンパワーメントを取り上げた研究と、いずれも分析枠組みとしてのジェンダーの重要性を喚起している論文ばかりを所収している。田村慶子は編集責任者（編者）を務め、序章「ジェンダーの国際政治」を執筆した。

園田 茂人会員



著書名：教育は不平等を克服できるか
著者：園田茂人・新保敦子
発行年月：2010年06月
出版社名：岩波書店

改革開放以後、学歴間格差が広がっている。海外留学ブームで欧米型の学問や外資系企業への人気が高まり頭脳流出現象が顕在化する一方で、農村や少数民族地域での初等教育の立ち遅れに対する対策が急務となっている。科学制度から中華民国期の教育普及政策、文革の混乱などを通して、教育と不平等の歴史的相関関係を読み解く。

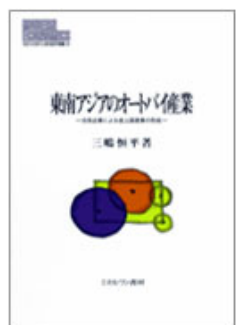
丸川知雄会員



著書名：携帯電話産業の進化プロセス—日本はなぜ孤立したのか
著者：丸川知雄（東京大学）・安本雅典（横浜国立大学）編
発行年月：2010年6月
出版社名：有斐閣

携帯電話の世界で日本は、第3世代のスタート、カメラ付きケータイ、カラー液晶、i-modeなど世界の先端を走ってきたはずだった。ところがふと後を振り返ってみると、誰もあとをついてきていなかった。いつしか日本の携帯電話産業は「ガラパゴス」と揶揄されるに至った。携帯電話産業の進歩は、「先進—後進」という枠組で捉えることができないことが明らかとなり、むしろ各国の文化や所得水準に対応した多様な進化の経路が見られることがわかった。本書は、携帯電話産業が対照的な進化を遂げている日本と中国を中心にして、グローバルな携帯電話産業の進化の様相をとらえようとしたものである。

三嶋恒平会員



著書名：東南アジアのオートバイ産業—日系企業による途上国産業の形成
著者：三嶋恒平（熊本学園大学）
発行年月：2010年5月
出版社名：ミネルヴァ書房

本書は東南アジア、特にタイとベトナムにおけるオートバイ産業の形成と発展のありようを考察したものである。あわせて本書は相対的後進性仮説と製品・工程ライフサイクル説を視角としながら、企業行動とそれによるイノベーションに焦点を当て、実証的な考察を深めた。こうして本書はグローバル化時代の途上国産業の新たな発展モデルを示すとともに、成長著しい新興国市場に挑む日本企業の組織的な進化を明らかにした。

◆菱田雅晴会員、石井知章会員、小嶋華津子会員、南裕子会員、中岡まり会員、阿古智子会員、唐亮会員、呉茂松会員



著書名：中国 基層からのガバナンス
編著：菱田雅晴（法政大学）
発行年月：2010年3月
出版社名：法政大学出版局

千差万別にして個別性に富むグラスルーツ中国で起きつつある変化とは何か？ 基層政治社会こそがあらゆる中国の変革の“孵化器”であることから、果たしてその基層部分での変化が持つ中国ガバナンスへの全体インパクトとは？ 逆に、党＝国家側はこれに如何なる対応を図ろうとしているのか……が本書の最大の関心テーマである。政治学、社会学等をディシプリンとするさまざまな研究者が国家社会関係フレームワークに依拠しつつ、これに挑んだ成果が本書である。

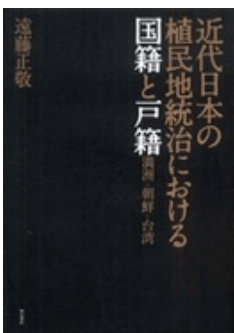
◆吉岡英美会員



著書名：韓国の工業化と半導体産業—世界市場におけるサムスン電子の発展—
著者：吉岡英美（熊本大学法学部）
発行年月：2010年3月30日
出版社名：有斐閣

韓国の半導体産業はいかにして米・日の強力な競争相手となりえたのか。世界のDRAM市場を先導するサムスン電子の事例分析を通じて、「グローバル化」のなかでの韓国の産業発展のメカニズムを明らかにする。

◆遠藤正敬会員



著書名：近代日本の植民地統治における国籍と戸籍—満洲、朝鮮、台湾—
著者：遠藤正敬（早稲田大学台湾研究所）
発行年月：2010年3月25日
出版社名：明石書店

近代日本の国籍法は血統と家の秩序が支柱となり、「日本人」という身分が国籍を公証する戸籍によって操作自在となるという機会主義がみられた。朝鮮、台湾、満洲国においては植民地人を対外的には国籍によって画一的に統轄しながらも、対内的には戸籍によって血統的・民族的に峻別する統治政策が維持された。ことに満洲国の国籍と民籍をめぐる政策過程においては、日本人の民族的純血への考慮から、結局は日本戸籍による法秩序が優先されることで満洲国の独立性も破綻せざるを得なかった。

◆柴田哲雄会員、やまだあつし会員、泉谷陽子会員



著書名：中国と博覧会—中国2010年上海万国博覧会に至る道—
著者：柴田哲雄（愛知学院大学教養部歴史学教室・准教授）、やまだあつし（名古屋市立大学大学院人間文化研究科・教授）
発行年月：2010年3月
出版社名：成文堂

小著は科研の共同研究成果の一部であり、上海万博の開幕を機に上梓された。第一部では清朝末期の南洋勸業会から上海万博に至るまでの、各時期の中国中央・地方政府により実施された博覧会について論じた。第二部では日本の植民地・占領支配下での博覧会と中国・台湾の関わりについて考察した。

益尾知佐子会員



著書名：中国政治外交の転換点 —改革開放と「独立自主の対外政策」
著者：益尾知佐子（九州大学大学院 比較社会文化研究院 准教授）
発行年月：2010年3月
出版社名：東京大学出版会

毛沢東時代に閉鎖体制をとっていた中国は、鄧小平のリーダーシップの下、世界秩序への積極的な参入を図った。この対外政策の転換は一体どのように実現したのか。またそれは改革開放という国内政治の展開とどう関連していたのか。中国の新指導部は、中越戦争後、毛沢東時代のイデオロギー的な対外政策を見直し、主権国家間の関係を基軸として対外関係の再構築を図っていた。鄧小平の権威を守るため、長い間秘匿されてきた一連の過程がようやく解き明かされる。

若林正文会員、小笠原欣幸会員、松本充豊会員、佐藤幸人会員、松田康博、竹内孝之会員



著書名：ポスト民主化期の台湾政治—陳水扁政権の8年—
著者：若林正文（東京大学大学院総合文化研究科。なお、2010年4月から早稲田大学）
発行年月：2010年1月
出版社名：アジア経済研究所

2000年、歓喜に包まれて生まれた陳水扁政権は、何故、2008年、失望にまみれて退場することになったのか。台湾と東アジアにとって、この8年間は何だったのか。民主化を達成した後の台湾政治を多面的に分析した。

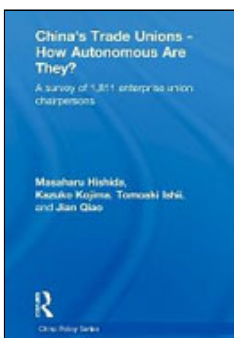
遠藤 元会員



著書名：新興国の流通革命—タイのモザイク状消費市場と多様化する流通—
著者：遠大東文化大学）
発行年月：2010年1月
出版社名：日本評論社

流通新業態の台頭が顕著なタイを事例に、徹底した実証分析に基づき、先行研究が主張する「通説」を批判的に検討した。その結果、さまざまな所得階層が織りなすモザイク状の消費市場を特徴とするタイでは、伝統的流通機構が依然として重要な役割を果たしており、「流通革命」は依然として部分的な現象にすぎないことを見出した。

菱田雅晴会員、石井知章会員、小嶋華津子会員

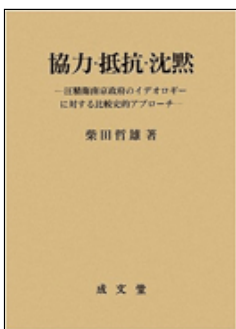


著書名：China's Trade Unions - How Autonomous Are They? A Survey of 1811 Enterprise Union Chairpersons
著者：石井知章（明治大学）、小嶋華津子（筑波大学）、菱田雅晴（法政大学）
発行年月：2009年12月15日
出版社名：Routledge

This book examines the status of trade unions in contemporary China, exploring the degree to which trade unions have been reformed as China is increasingly integrated into the global economy, and discussing the key question of how autonomous China's trade unions are. Based on an extensive, grass-roots survey of local trade union chairpersons,

the book reveals that although trade unions in foreign owned firms and in firms dealing with foreign firms are beginning to resemble trade unions in the West, in the majority of firms a state corporatist model of trade unions continues, with chairmen appointed by the party, with many of them occupying simultaneously party and trade union positions, and thinking it right to do so, and having power bases and networks in both the party and the trade union, with initiatives for protecting workers' interests coming from the top down, rather than the bottom up, and with collective negotiation and democratic participation in union affairs continuing to be a mere formality. The book shows how the state - wishing to maintain political stability - continues to regard itself, legitimated by the concepts of "socialism" and "proletarian dictatorship", as the sole arbiter of and protector of workers' rights, with no place for workers protecting their own interests themselves in the harsh environment of the new market economy. The book concludes, however, that because the different model of industrial relations which prevails in foreign owned firms is formally part of the government system, there is the possibility that this new more Western model will in time spread more widely.

柴田哲雄会員



著書名：協力・抵抗・沈黙—汪精衛南京政府のイデオロギーに対する比較史的アプローチ

著者：柴田哲雄（愛知学院大学教養部歴史学教室・准教授）

発行年月：2009年11月

出版社名：成文堂

本書は、第二次大戦時のいわゆる傀儡政権・汪精衛南京政府に関する本邦初の本格的な学術研究書であり、特にイデオロギーの諸相に関して解明した。本書の特筆すべき点は同時代のヴィシー政府との比較であろう。博士論文（京都大学人間・環境学）が基となり、学術振興会の研究成果公開促進費を交付。

丸川知雄会員



著書名：「中国なし」で生活できるか—貿易から読み解く日中関係の真実

著者：丸川知雄（東京大学社会科学研究所）

発行年月：2009年11月

出版社名：PHP研究所

ウナギ60%、タケノコ89%、そば57%—。これらはすべて中国産である。食料品だけではない。モノづくりのグローバル化が加速する中、日本は多くの製品を中国から輸入している。日本メーカーのお家芸のように思われているノートパソコンでさえ、2007年に輸入されたうちの実に98%が中国からのものだった。私たちの日常は中国からの輸入品に支えられているのだ。だが、2008年1月に起きた「毒ギョーザ事件」の際のバッシングのように、中国からの輸入品に対する不信感根強いものがある。中国製品とうまく付き合うためには、どんな製品が輸入されているのか、どんな現場で生産されているのか、どのような過程を経て日本に輸入されているのか、を知る必要がある。本書では中国製品への依存の実態と生産現場の実情をレポートした。

倉田徹会員



著書名：中国返還後の香港「小さな冷戦」と一国二制度の展開

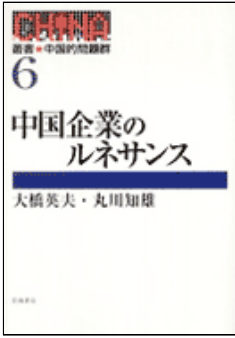
著者：倉田徹

発行年月：2009年11月

出版社名：名古屋大学出版会

香港は本当に中国に飲み込まれたのか？ 返還以前の多くの悲観的予測を裏切り、安定した中国・香港関係が生み出されたメカニズムを、一国二制度下の政治・経済・社会情勢の推移から明快に分析、「高度な自治」と中港融合の実像を鋭く描き出す。中国政治と香港の行方を考える必読の1冊。

大橋英夫会員、丸川知雄会員



著書名：叢書 中国的問題群6 中国企業のルネサンス
著者：大橋英夫（専修大学）、丸川知雄（東京大学）
発行年月：2009年9月
出版社名：岩波書店

中国のダイナミックな経済発展を支えてきた4000万社以上の企業群。国有企業、民間企業、外資系企業のそれぞれについて、中国近代以降の出自を探り、ビジネス・ネットワークの実態、経営戦略の特色、対外進出の特徴、労使関係の特徴、技術革新の課題を明らかにする。中国企業のグローバル化に伴う諸問題にも注目する。

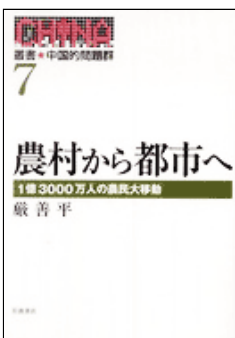
石川幸一会員、清水一史会員



著書名：ASEAN経済共同体—東アジア統合の核となりうるか
編著：石川幸一（亜細亜大学）・清水一史（九州大学）・助川成也（日本貿易振興機構）
発行年月：2009年8月
出版社名：日本貿易振興機構（ジェトロ）

ASEAN（東南アジア諸国連合）は、2015年までにASEAN経済共同体（AEC）を創設することを目指し挑戦を続けている。本書はASEAN経済共同体（AEC）とは何かを明らかにし、その意義、課題、影響を検討する。ASEAN関係文書や先行研究をベースとした上で、多くの現地調査を基にまとめられた。スリンASEAN事務総長の「発刊によせて」も読むことができる。

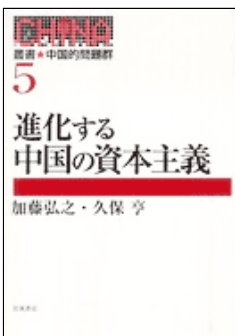
厳善平会員



著書名：叢書 中国的問題群7 農村から都市へ—1億3000万人の農民大移動—
著者：厳善平（桃山学院大学）
発行年月：2009年7月
出版社名：岩波書店

90年代以降の中国では、未曾有の規模で農村から都市への人口大移動が展開されている。彼らの活躍で世界の工場としての中国が成り立っているが、農村と都市の二重社会の様相が深まり、格差も広がっている。人口移動と移動政策の実態、農民工の就業と生活、農民大移動の社会経済への影響について、統計データを駆使して分析する。

加藤弘之会員、久保亨会員



著書名：叢書 中国的問題群5 進化する中国の資本主義
著者：加藤弘之（神戸大学）、久保亨（信州大学）
発行年月：2009年6月
出版社名：岩波書店

改革開放後、急成長を遂げた中国。その資本主義市場経済は欧米や日本の資本主義とどこが同じでどこが異なるのか。中国の独自性はいずれ消滅し欧米型資本主義と同じものになっていくのか。中国型資本主義として独自の発展を遂げるのか。市場の秩序のあり方と政府の役割に焦点を当てて、中国資本主義のゆくえを考察する。

小原篤次会員



著書名：政府系ファンド 巨大マネーの真実
著者：小原篤次（みずほ証券）
発行年月：2009年2月
出版社名：日本経済新聞社

サブプライム危機に揺れるグローバルマーケットに救世主として現れた政府系ファンド。中国、中東など政府主導の巨大マネーがいま世界経済を動かそうとしている。世界を席卷する政府系ファンドの素顔と実力に迫る。

愛みち子会員



著書名：香港返還と移民問題
著者：愛みち子（共立女子大学 非常勤講師）
発行年月：2009年2月
出版社名：汲古書院

香港の現代史において重要で、地域性において象徴的な問題として、1997年前後の児童移民問題（「小人蛇」問題）に注目した。この問題は、返還後の香港社会の不安定な面を映し、香港と中国の歴史的なありようも体現していた。問題への香港、中国の各グループの対応を通じて、返還後の香港の基本的な状況と移民社会の特徴を明らかにした。

奥島美夏会員



著書名：日本のインドネシア人社会
編著：奥島美夏（神田外語大学異文化コミュニケーション研究所）
発行年月：2009年1月
出版社名：明石書店

神田外語大学異文化コミュニケーション研究所の共同研究プロジェクトによる日本初の在日インドネシア人専門書。彼らはこれまで技能研修生や漁船員といった非熟練労働者として首都圏近郊の工場や漁船、農村で働いてきたが、最近ではEPA経由の看護師・介護福祉士候補としても注目されている。国際移動の背景から、日本ででの生活と労働の実態を立体的に探り、両国の政策転換期を迎えて彼らが直面している諸問題を明らかにする。